

「苦しみと付き合うために」

ピリピ 1:29～30

2016.09.11 HKJCF

1

概観

なぜ悪と苦しみが存在しているのか？神様はなぜ災害や惨事を阻止しないのか？9.11の15周年にちなんで、聖書の観点から一緒に苦しみについて学んでいきたい。

アウトライン

1. 苦しみの由来: 人間の自由意志
2. 苦しみの理解: 共に苦しむキリスト
3. 苦しみの目的: 信仰と人格の成長
4. 適用: 苦しみと付き合うために

2

1. 苦しみの由来: 人間の自由意志

- 1) 神様の創造が良かった: 神様は「罪」を創造していない。オリジナル・デザイン、神様の御心を理解する必要がある(創世記1-2章)。
- 2) 人間の自由意志: なぜ人間の墮落を赦したのか: 愛の最高表現。「罪」⇒苦しみと死(創世記3章)。自然の悪と人間の悪。愛と従順の法則が破られた(Ⅰヨハネ 3:4)。
- 3) すでに…まだ: 歴史の結末がはっきりしている(黙示録 21:4)。「問題」⇒「ミステリー」。なぜ?いつ? ⇒だれ?どのように?

3

2. 苦しみの理解: 共に苦しむキリスト

- 1) 苦しみの意味: 無意味な苦しみは耐えられない。結末は将来完成されるので、今は信仰で受け取る。意味が知らされる場合もある: ヨセフの人生(創世記 50:20)。
- 2) 因果関係について: 苦しみは人間の罪と神の裁きと必ずしも直接関連していない(ルカ 13:2-4;ヨハネ 9:1-3)。
- 3) 十字架の上のキリスト: 人間が想像できない苦しみと孤独(マタイ 27:46)。十字架は苦しみの回答にならないが、愛の証明となる。

4

3. 苦しみの目的: 信仰と人格の成長

- 1) 信仰の成長: 神様の方法と御心を理解すること(Ⅱペテロ 3:8-9)。祈りの姿勢が変わる。受け身の信仰⇒主体的な交わり。
- 2) 人格の成長: 大きい心。忍耐の大切さ(ヤコブ 1:2-4;ローマ 5:3-4)。品性と希望。
- 3) 恵みの体験: 「弱さのうちに現れる」: 恵みをたっぷり受けられる。(Ⅱコリント 12:9-10)。
- 4) 新天新地の期待: 参加賞⇒一等賞。現在の生活の延長や補足ではない。永遠の観点で今の患難と付き合う(Ⅱコリント 4:17-18)。

5

4. 適用: 苦しみと付き合うために

- ① 苦しみは信仰の歩みの一部(V29)
弟子は「先生」の生き方を真似する。イエス様との関係が深まっていく。
- ② 他人も同様に苦しみに遭っている(V30)
孤独に抱え込む必要がない。信仰の兄弟姉妹も同様苦しんでいて、主が共におられる。
- ③ 神様は主権を握っておられる(伝 3:11)
神様のご計画は、すべて時になんて美しいので、信頼してゆだねていく。

6